

これって どうなの??

40

年事務局にいますと、多くの職員との出会いと別れを経験したが、今もって忘れ難いのはBさん。1年先輩のBさんは、なんとも不思議な人だった。

社会人一年生の私に、Bさんは「さくらちゃん（私の旧姓）、ブラックホール知ってる？」と尋ねた。「知らない」と応えようと、事あるごとに宇宙の神秘・ブラックホールの説明をしてくれたのだが、私は一向に理



解できなかった。

ある日、事務局の扉を開けて入ってきたBさんの顔を見て、事務局は大騒ぎに。なんとBさんの顔が、緑色！皆さんは「存じだろうか。昔は、薬局前にはオレンジ色の象のサトちゃんや緑色のカエルのケロちゃんが置かれていた。まさに、Bさんの顔はケロちゃん色だった。」

Bさん曰く、昨日、化粧品を買い

にいったら、顔色がくすんでいるの

で、化粧下地に緑色のコントロールカラーを勧められたとのこと。コントロールカラーを塗った上にファンデーションを塗り、顔色を明るくするのだが、それを知らなかったBさん。緑色のコントロールカラーだけを塗り、マスカラ、口紅をつけ、ぱっちりメイクで出社したのだ。

その他にも、結婚が決まったとき

には、嫁入り道具の三種の神器は

「冷蔵庫、洗濯機、食器洗い機」と言い放った。食器洗い機など普及していない時代に一步も二歩も先を行き、おまけに新婚旅行は、スイスにスキーに行った。

おかしくも不思議なBさんは、もしかししたら、映画「メン・イン・ブラック」に登場する宇宙人？なのかもしれない。

〈事務局長 山橋由貴子〉

のんちゃんの おすすめ紹介

読書編

この号が発行される頃には、コロナウィルス感染拡大に収束の兆しが見えていることを願いつつ…。今回は、外出自粛要請中に読んだおススメ本の紹介です。

ベストセラーとなった阿川佐和子さんの「聞く力」（文春新書）。最近、徐々にインタビューさせていただく機会が増え、せめてもの参考になれば…と思い、手に取りました。ただ、阿川さんはチャームで機転が利き、文章力もある才女。インタビュアーとしても、天性の才能をお持ちなのだろうし、私のような凡人が参考にできるような内容なのだろうか、と心のどこかで思っていました（失礼）。

しかし意外にも、阿川さんはインタビューが苦手で、城山三郎氏との対談の際に、自分ばかりが喋ってしまったという失敗が。そのとき、城山氏が阿川さんの話に絶妙な相槌を打っていたことを思い出し、「相手の話を面白そうに聞く」ことが、面白い話を引き出す最大のポイントだと気づいたそうです。

また、とても共感できたのが、予定した質問や段取りを気にするあまり、相手の話が耳に入ってこない…という事態。相手の話に集中していないと、面白いと思ったことや、疑問に思ったことを掘り下げられないので、話が広がらないというのは、私も経験がありました。

良い質問をし、するどい切り返しをすることが、良いインタビュアーだと思っていましたが、相手の話をじっくり聞き「良い相槌を打つ」ことこそ、一番大切なのだと改めて気づいた私。これなら、私にもできそう……。これまでの対談の裏話も満載で、とても楽しめる本です。おススメします！

